



令和3年1月29日

報道機関各位

新しい樹木が発見されました カムチャツカナニワズの発見

(概要) これまで日本にはないとされていたカムチャツカナニワズ(ジンチョウゲ科)を道東で初めて発見し、学術誌で発表しました。本種は1859年にロシアで新種発表され、日本では1915年に北大の宮部らが、当時の樺太にあるとしてカラフトナニワズの和名を与えました。以来どのような植物か、北海道にあるのかどうか研究者の間で議論されましたが、未決着でした。今回100余年ぶりにこの植物の詳細や北海道での分布を明らかにしたことで、この議論に終止符を打ちました。

また、この植物は個体数が大変少なく、希少種として保護が必要です。

◎この発見のポイント

研究が進んだ現在、日本国内しかも小笠原など離島を除いた本土で新しい樹木が見つかることはたいへん希です。

この100年余り、下記のように日本の代表的な植物学者がどのような植物か、日本にあるかを議論してきましたが、詳しいことはわかっていませんでした。今回カムチャツカで現地調査を行い、詳細な比較をすることで、この植物が斜里町に分布することを明らかにしました。

・100年間の議論の経過(詳細は次ページにあります。)

宮部金吾(北大)1915、中井猛之進(東大)1937、濱谷稔夫(東大)1955、村田源(京大)1989、邑田仁(東大)1999

◎標本は北大総合博物館、道総研林業試験場でご覧いただけます。

◎実物は林業試験場でご覧いただけます。開花は4月下旬～5月中旬。

◎発表したタイトルと雑誌名

Noritoshi NITTA^a and Akitomo UCHIDA^b: *Daphne kamtschatica* (Thymelaeaceae), a New Record for Japan from Hokkaido

新田紀敏^a, 内田暁友^b: 北海道から日本新産のカムチャツカナニワズ(ジンチョウゲ科)

The Journal of Japanese Botany/植物研究雑誌Vol. 95 No. 6 2020年12月20日発行

a: 林業試験場、b: 北見市在住(元斜里町立知床博物館)

◎希少種となる可能性が高いため、自然保護助成基金27期の助成を受けて研究を進めました。

◎北海道の植物に詳しい研究者(今回の発見に関するコメントをいただければと思います。)

佐藤 謙 北海学園大学名誉教授

高橋英樹 北海道大学名誉教授

ともに現在北大総合博物館資料部

詳しくはこちらへお問い合わせください。

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構(道総研)

森林研究本部林業試験場 保護種苗部保護グループ(担当者: 専門研究員 新田紀敏)

電話 0126-63-4164 ※平日8:45~17:30 土・日・祝日・年末年始はお休みです。

カムチャツカナニワズ *Daphne kamtschatica* が北海道で発見されるまでの議論の経過

1859年 マキシモビッチ（ロシア） 新種報告。分布をアムールとカムチャツカ地方とした。

- 1915 宮部 金吾（北大） *Daphne kamtschatica* が当時の樺太に分布するとして、カラフトナニワズと命名(和名)した。
- 1937 中井猛之進（東大） *Daphne kamtschatica* は樺太には分布せず、カムチャツカナニワズと改称することを提起した。
- 1955 濱谷 稔夫（東大） *Daphne kamtschatica* の分布を南千島、南サハリン、カムチャツカとし、北海道に分布するかは不明とした。
- 1989 村田 源（京大） 紋別市で1954年に採集された標本は *Daphne kamtschatica* の可能性があると報告した。
- 1999 邑田 仁（東大） 著書の中で、岨山(空知)の植物が *Daphne kamtschatica* に近いと記した。
- 2020 新田・内田(今回) 北海道斜里町に分布することを報告。

100年の議論が決着

カムチャツカナニワズを斜里町で発見

これまで日本には自生しないとされていた灌木、カムチャツカナニワズ *Daphne kamtschatica* Maxim. (シンチョウゲ科) を道東の斜里町で初めて発見し、このたびその内容を学術誌で発表しました（下記）。日本産の樹木が1種増えたこととなります。

早春の林床でいち早く花を咲かせる灌木にナニワズがあります。まだほかの花が咲く前に良い香りを漂わせています。このナニワズの仲間は日本海とオホーツク海を囲むように4種類が知られ、うち3種類は日本に自生することが知られていましたが、残りの一つは未確認でした。文献では他のナニワズの仲間で黄色や緑色など色のついた花をつけるのに対し、本種は白い花をつけることが大きな特徴です。また他のナニワズ類にはない長い地下茎を持っています。研究では斜里町でさまざまな特徴を調べ、ロシアのカムチャツカで調査を行って、これらの特徴が一致することを確認し、それを同定の決め手としました。これまで遥か北方にあるカムチャツカの固有種とされていたので、北海道が分布の南限になりました。

本種は1859年にロシアの植物学者マキシモヴィッチがロシア、カムチャツカ地方などの標



白い花を咲かせるカムチャツカナニワズ
高さ40～50cm、花の直径は6mmほど 斜里町にて

本に基づき新種発表しました。日本では1915年に北海道帝国大学の宮部金吾教授と三宅勉博士が、当時の樺太にこの植物があるとしてカラフトナニワズの和名を与えました。その後1935年には、東京帝国大学の中井猛之進教授が宮部らの報告した植物はマキシモヴィッチの報告とは別なものだとして、本種にカムチャツカナニワズという別な和名を与えました。以来、どのような植物か、北海道にあるか否か多くの植物研究者の間で議論され、これまで決着がつかないままでしたが、本報告で100余年ぶりにこの植物の詳細を明らかにするとともに、北海道に分布するという結論に達し、この議論に終止符を打つことができました。

（保護G 新田紀敏）

Noritoshi NITTA and Akitomo UCHIDA. 2020. *Daphne kamtschatica* (Thymelaeaceae), a New Record for Japan from Hokkaido. 植物研究雑誌 95(6):343-350

林業試験場 本場 TEL 0126-63-4164 FAX 0126-63-4166
道南支場 TEL 0138-47-1024 FAX 0138-47-1024
道東支場 TEL 0156-64-5434 FAX 0156-64-5434
道北支場 TEL 01656-7-2164 FAX 01656-7-2164
ホームページ <http://www.hro.or.jp/fri.html>
facebook <https://www.facebook.com/ringyoshi>

発行年月 令和3年1月
発行 地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
森林研究本部 林業試験場
〒079-0198 美幌市光珠内町東山